

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
研究支援人材育成プログラム
(実施期間：平成 26～令和 3 年度)

コンソーシアム名：再生医療支援人材育成コンソーシアム

代表機関：大阪大学（総括責任者：西尾 章治郎）

共同実施機関：京都大学、東京医科歯科大学

取組の概要

再生新法の施行を控え、医療倫理・安全を熟知し、細胞培養技術を習得した人材の育成が急務である。本取組は、再生医療における培養・加工等に従事する人材の育成システムを構築し、安全で有効な再生医療の実践に資することを目的とする。大阪大学、東京医科歯科大学の保健学科は、高度な専門性を持った医療スタッフを輩出してきており、また、京都大学iPS細胞研究所では、iPS細胞臨床応用開発の中で幹細胞培養に関わる人員を育成している。これらの教育現場を舞台に、新たなキャリアパスとして、幹細胞の培養・加工等に従事する再生医療実務職と、リーダーシップを備えた新たな再生医療上級専門職を育成し、社会に輩出するシステムを構築して、日常の培養・加工等に必要業務から、より高度で専門的な技術の習得まで、一貫した取組で行う。また、座学に加えて「細胞加工等トレーニングセンター」を活用し、OJT実習を取り入れる。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (システム構築)	進捗状況 (取組の内容)	体制構築	今後の進め方
B	b	b	b	b	c

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で所期計画と同等又はそれ以上の取組もみられる）

(2) 評価コメント

社会的ニーズが高まっている再生医療分野において、実践に資する人材の育成を目的として外部機関と連携して教育システムの確立に努めたことは、再生医療の基盤強化に寄与したと認められた。しかしながら、コンソーシアムの事業活動においては、各機関の人材雇用に関する目標が達成できなかったことや、雇用のための自己資金拠出が少なかった点等の課題が残っている。上級専門職としてのキャリア把握や育成効果の把握・評価、さらには構築した人材育成の仕組みが今後どのように活かされていくのかについても不透明な状況と言える。本コンソーシアムが解散して、将来計画が未確定のまま人材育成の役割が、大学毎の取組に戻ることも残念である。

・**進捗状況（全般）**：日本再生医療学会やFIRM（Forum for Innovative Regenerative Medicine）と協力して臨床培養技能者の資格取得が可能な教育システムを構築した。コンソーシアム内の資金の活用計画がうまく実行できなかったために、予定していた企業人材の育成が実施できなかったことで活動の停滞を招いたことは改善が望まれるが、全体で38名を採用し、臨床培養士として15名、上級臨床培養士として2名が資格取得したことは成果と認められる。実習、e-ラーニングシステム等の講習システムを構築できたことは評価できる。一方、上級専門職育成に関しては十分な成果とは認められず、育成方策の再検討が必要である。

・**進捗状況（システム構築）**：評価システムとして、e-ラーニングに統計システムを導入して支援人材の履修状況を管理し、オンラインシステム、情報共有システムを利用したセミナーや教材の共有を行う等、IT化が推進されていることは評価できる。3回の交流会実施は、FIRM加盟の企業への就職を見据えたマッチング機会にも利用されている。一方でコンソーシアムとしてのカリキュラム等への取り組みについては、積極的に関わっているとは言えず改善が望まれる。

・**進捗状況（取組の内容）**：人材の選考は各機関での一次選考後、コンソーシアムでの二次選考に、再生医療イノベーションフォーラムの教育委員会委員長を加えて厳正に行われた。本プログラムで作成した教育ビデオは、日本再生医療学会のHPに掲載されて広く利用されており、取組の波及効果が認められる。FIRMと共同で求められる人材についてのアンケート調査を複数回実施したことも評価できる。若年者向けのシンポジウムやサイエンスハイスクールへの出展、保健学科でのカリキュラムの設立等、再生医療に対する広い教育活動にも取り組んだ。

・**体制構築**：再生医療に精通した研究者が加わり、バランスの取れた運営協議会が構成された。有識者から構成される外部評価委員会が設置され、評価結果をコンソーシアムの運営に反映させていることは評価できる。一方で、各機関の連携についてはコンソーシアムの理念を具現化したとは言えず、各機関の人材交流や流動性が広く展開できる体制を構築するには至らなかった。

・**今後の進め方**：本コンソーシアムに関わった各大学が再生医療人材育成を独自の形で継承しているが、具体策は示されていない。教育プログラムが日本再生医療学会やFIRMでの人材養成講座で活用されることは評価できる。本コンソーシアムが、この後継続されずに解散してしまうことは残念である。参加した個々の組織や個人の活動に分散されることは所期の計画とも異なっていることから、再生医療の基盤強化に今後も協働しての事業発展が、改めて望まれる。